

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 27日

茨城県知事
大井川 和彦 殿

提出者

住 所 茨城県北茨城市華川町白場187番地4号

氏 名 JX金属株式会社 磯原

工場長 山 越 康 夫

電話番号 0293-43-51

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	JX金属株式会社 磯原工場
事業場の所在地	茨城県北茨城市華川町白場187番地4号
計画期間	令和5年4月 から 令和6年3月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	非鉄金属製造業
②事業の規模	資本金 750億円
③従業員数	1,217名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	① 焼却処分 ② 中和処理 ③ 熱分解



(日本工業規格 A列4番)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工場長－環境安全部（特別管理産業廃棄物管理者）

製造部門

開発部門

間接部門

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状

【前年度（令和4年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃酸（廃酸、 強酸）	汚泥	引火性廃油	強アルカリ
排 出 量	982.1t	114.9t	4.2t	7.2t

（これまでに実施した取組）
 廃酸の排出量については、含有成分による有価引取り先の開拓が実現し、令和3年12月より大幅な削減を実現した。

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃酸（廃酸、 強酸）	汚泥	引火性廃油	強アルカリ
排 出 量	920 t	100 t	4 t	5 t

（今後実施する予定の取組）
 （１）生産工程の見直し改善等により製品率を向上させることによって発生原単位の削減に努める。
 （２）廃棄処分しているものを工場内で更なる回収リサイクル化を図る。

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
 特別管理産業廃棄物も含め産業廃棄物全般について分別管理の徹底を図る為、産業廃棄物処理管理細則と呼ばれる規定を工場内で定め、廃棄物の定義、保管場所、処理方法等の概要等を明らかにしている。

②計画

（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
 現状の取り組みについて、継続実施する。

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸（廃酸、強酸）	汚泥	引火性廃油	強アルカリ
	全処理委託量	982.1t	114.9t	4.2t	7.2t
	優良認定処理業者への処理委託量	982.1t	114.9t	4.2t	7.2t
	再生利用業者への処理委託量		t		t
	認定熱回収業者への処理委託量		t		t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t		t
	(これまでに実施した取組)				
	当工場で前年度廃棄した特別管理産業廃棄物は、全て優良認定処理業者へ処理を委託している。				

②計画	【目標】				
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸（廃酸、強酸）	汚泥	引火性廃油	強アルカリ
	全 処 理 委 託 量	920 t	100 t	4 t	5 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	920 t	100 t	4 t	5 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量		t		t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量		t		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量		t		t
	（今後実施する予定の取組） 現状の取り組みについて、継続実施する。				
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（令和4年度）実績】				
	特別管理産業廃棄物 排 出 量 （ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。）	1, 100 t			
※事務処理欄	（今後実施する予定の取組等） 特別管理産業廃棄物の電子マニフェスト処理感は完了しており、今後も運用の維持のため従業員を指導する。				

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「－」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。